

## 海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：国際教養学部

学年：3

留学先大学：タンペレ大学

現在の学期：一学期

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	Finnish Society and Culture 14:00~16:00
火	Introduction to Socially Sustainable Societies 10:00~12:00-
水	Finnish 1 8:00~10:00
木	Introduction to Social Research 10:00~13:00
金	Psychology of personality Independent study
土・日	

### 履修科目や近況について

講義はディスカッションやレクチャー、ワークショップの混合型で、はっきり分かれているわけではなく、教授が講義をした後にディスカッションの時間が取られたり、この日はワークショップと予め決められている日があったりと、授業時間中飽きるということがありません。

また福祉や社会制度についての授業が多く、特に北欧の優れたそれを学びに来ている留学生が非常に多い印象を受けます。

街は非常に清潔で、戦争の名残を感じさせる新しさです。歩道が道路のように広く、人々のパーソナルスペースも日本以上に広いといえます。フィンランドには amazon がなく、セカンドハンドショップや古着屋がとても多く目立ちます。地元の保護猫施設でのボランティアも始めましたが、ペットショップが非常に少ない分、保護猫や保護犬を引き取る

という考えがかなり主流のようで、猫たちはすぐ引き取られていきます。街中の落書きはどれもアート性が高く目を楽しませてくれます。



気分が落ち込むときは、古本屋さん 1€で売られている 100 年前の古雑誌を買って、フィンランド語ですから解読に時間がかかりますが、この地で暮らす人々の生活における文化や精神性に思いを馳せて癒されています。



道に急いでいる人は一人もいません。服を着ていても好きなときに湖に飛び込み、森に入り、ここは野心や息苦しさを感じさせない場所です。人生においてなにが自分を幸せにしてくれるのか、いちばん大切にすべきものは何か、静かに理解している人が多いように見受けられます。



水鳥は人懐こく、そばまで寄っても逃げていきません。昼間の湖面は水鳥たちがせわしなく飛行機雲のように航跡を残して凧ぎません。夜になると湖面は停止し、水鳥たちがどこで眠っているのか不思議に思います。



L'Éternité(詩)を思い起こさせてくれる風景です。湖畔ではよくうつむいている方を見かけます。フィンランドでは鬱が大きな問題となっているそうですが、それに関してあまり驚きはありません。